

時代にまでも及んで明治維新今日の日本を形造る根本になつたのであると論じ、「應仁の亂に就て」に於て此の亂は全く日本を改造させ、思想上に於ても將た亦智識趣味上に於ても、今迄貴族階級専有のものであつたのが一般民衆的になる傾向を持ち來つたのであると論じて居られ、其の他全編に涉つて著者の該博なる智識を透徹せる史眼を因はれざる論述は大に傾聽すべきである。

(菊版本文二六五頁、京都弘文堂書房發行、定價參圓)

【松野】

●今世中國貿易通志 陳重民編

本書は信據すべき統計に基き支那對外貿易の内容を叙述し實際の參考に供せむとするものにして、第一編は輸出入貿易の消長、各開港場貿易の概況、船隻航運の盛衰金銀現金の出入等對外貿易の大勢を叙し、第二編は輸出貨物の産地産額、輸出統計、交易の習慣、外國に於ける消費の情況を記し第三編に輸入貨物其の産地の狀況、輸入統計内地にての消費並に市場に於ける競争の實況を謂ふ、統計は民國九年迄のものをを用ひ、海關華洋貿易、農

商公報、外交公報以下日本人の編述に係る十五種以上の諸書に基き記述せり。(民國十三年四月刊、商務印書館發行價大洋二元五分)

●支那當代新人物 清水安三著

本書は北京週報主筆として支那の新人に接觸し其の風手抱懷に親炙する機會多き著者が在支宣教師の獻身的努力を在支外人の支那研究に熱心なるに動かされて支那當代新人物を紹介せむが爲に執筆せしものにして、施きて現支那政界に於ける事情を叙し、宣統帝、袁元洪、曹錕、張作霖、吳佩孚、馮玉祥、王寵惠、汪榮寶、辜鴻銘、柯劭忞、康有爲、梁啓超、胡適、陳獨秀、李大釗、李石、曾孫文、蔡元培等諸氏の事情を叙し、甚だ便利なる書なり(東京日本橋區數寄屋町大阪屋號書店發行、四六版定價貳圓)

支那新人と黎明運動 清水安三著

全部十三章より成り緒言、孔教改革と新儒教、思想革命と新憲法、文章革命と其將來、漢字革命と新字母、學

生に民衆運動、排日の解剖、婦人問題に其運動、支那の主義者總まくり、現支那の文學、支那思想界近狀、現支那の教育事情、支那基督教批判、に分る各項興味ある記載に富み筆を歐化に其の反動に起し思想界の近狀には丁文江、張君勵、梁漱溟、胡適、吳稚暉、陳獨秀の態度を叙するが如き、其の記載が頻々として我が新聞紙に現はるる割合に概觀的の知見を缺ける我が邦人の支那現狀に對する智識の缺陷を補ふには有益なる良著を謂ふべし。
(大阪屋號書店、四六版四百頁、價二圓五十錢)

●支那文化史講話

文學士 高桑駒吉著

東洋史學界の耆宿たる著者が從來の東洋史書の執筆法を變へて主として所謂文化史を中心として支那五千年の歴史を叙したるものなり、周以前、周代、兩漢及三國、兩晉南北朝、唐代、宋代、元代、明代、清代の九章に分ち各章に歴史概説を題して其の時代の王朝興亡史を概説して前出し、而して後に文化史一般として諸制度、法律諸科學、文藝、美術、工藝、音樂、風俗、習慣、思潮、

衣食住、農工商業等につき興味津津たる記述をなせり。
(東京本郷區西片町共立社發行、菊版五百三十頁、價四圓三十錢)【那波】

彙報

●口繪解説

本號の口繪として收められた二つの陶質器は昨年の五月から六月に互つて朝鮮總督府古蹟調査員の學術調査を行つた慶州路東里西塚の發見品である。該發掘が考古學上に種々貴重な研究資料を齎したことは前號彙報欄に紹介したところであるが、此の陶質器の如きはまさに其の尤なるもの、一に數へらる可きもので、從來南朝鮮に於いては殆んど類例を見なかつた珍しい器形を示してゐる、即ち上の一は騎馬の人物像で、薄い臺板の上に太つた馬の形を造りつけ、これに鞍其他の馬具をしつらへ、別に作つた一個の人物を乗せたもの、其の馬につけた置き鞍をはじめ鈴、杏葉、雲珠等の馬具の着裝狀態を精確に表